

3 雑誌九十種資料の外来語表記（昭和59年）

宮 島 達 夫
高 木 翠

これは、国立国語研究所で行った雑誌九十種調査（昭和31年中に発行された雑誌90種類についての語彙調査）に現れる外来語（地人名を含む）の表記の傾向を「外来語の表記」（昭和29年国語審議会）の原則1～19にあてはめて考察したものである。国立国語研究所報告79「研究報告集5」（昭和59年3月）所収。

宮島達夫は、国語学者。国立国語研究所言語体系研究部第二研究室長。高木翠は同研究室員。

雑誌九十種資料の外来語表記

宮 島 達 夫

高 木 翠

われわれは、さきに、「雑誌九十種資料の漢語表記」という報告をまとめ、国立国語研究所報告62『研究報告集 4』(1978)に発表した。そのつづきとして、外来語表記についての調査結果を報告する。

分析の対象は、1956年の雑誌九十種からぬきだした、のべ約44万語(β単位)の表記である。漢語表記の報告でのべたように、資料のふるさにもかかわらず、調査の規模や方法の面からいっても、自由な表記の実態をしめす面からいっても、この資料は、まだ、その価値をうしなっていないとおもわれる。

調査の方針のうえで、漢語のばあいとちがうのは、おもにつぎの2つの点である。

(1) 人名・地名も対象にしたこと。「太郎」が漢語で「花子」が和語だというちがいは、あまり意味がないが、「ジョン」「ニューヨーク」における外来語性は、かなりつよい。

(2) 漢語のばあいは、全体としてどのくらいかながきされているか、といったこともしらべたが、今回は、表記のゆれにおける、いくつかの問題点にしばったこと。

なお、「バターいため」のような混種語における外来語部分も対象としたことは、漢語のばあいと同様である。「訓練係」のように、ルビとして外来語がかかっているものも、文脈として、こうよむのが自然であるばあいは、外来語が主体とみとめて、対象にいれた。

この報告の中心は、外来語表記のゆれである。ただし、部分的に、発音のゆれとみられるものにもふれた。「表記のゆれ」は、厳密に言えば、一定の発音を前提とする。「タイプライター～タイプライタア」は、発音がおなじ

だとおもわれるので、表記のゆれである。「タイプライター～タイプライタ」は、発音のゆれが表記に反映したもので、これ自体は表記のゆれではない。しかし、じっさいには、この区別がむずかしいばあいがある。たとえば、「ピアノ～ピヤノ」は、発音がちがうはずだが、その差は微妙である。「ア」または「ヤ」がかいてあるからといって、そのとおり発音しているとみるのは、あぶない。つまり、これは発音の差のはずだが、じつは表記の差にすぎないかもしれないのである。（「タイプライタ」とかいている人も、「～ター」とのぼして発音している可能性がないことはない。）それで、発音のゆれとおもわれるものも、純粹に表記上のゆれと区別せずに、とりあげることにした。

外来語のゆれを考えるうえで参考になるのは、「外来語の表記について」（国語審議会、1952年12月）である。ここには、日本語としてのこれこれの音はこうかく、というのと、原語のこれこれの音はこうかくという発音の基準をからめたものとあわせて、19条の「外来語表記の原則」がのべられている。以下これを簡略化してしめす。○印は、この報告でとりあげた項目。

① かたかなで書く。

2 慣用に従う。

ケーキ リュックサック

③ はねる音は「ン」で。

テンポ トランク

4 つまる音は「ッ」で。

コップ カット

5 原音のつづりに引かれて「ン」「ツ」をいれない。

コミュニケ キス

6 よう音は「ャ」「ュ」「ョ」で。

ジャズ チョーク

⑦ 長音は「ー」で。

ボール メーカー

- ⑧ イ列エ列の次の「ア」は「ヤ」としない。
ピアノ ヘアピン
- 9 原音の「トゥ」「ドゥ」は「ト」「ド」に。
ゼントルマン ドラマ
- ⑩ 原音の「ヴァ」……「ファ」……は「バ」……「ハ」……に。
プラットホーム バイオリン
- ⑪ 原音の「ティ」「ディ」は「チ」「ジ」に。
チーム ラジオ
- 12 原音の「シェ」「ジェ」は「セ」「ゼ」に。
セパード ゼリー
- 13 原音の「ウィ」「ウェ」「ウォ」は「ウイ」「ウエ」「ウオ」に。
ウイスキー ウェーブ
- 14 原音の「クァ」「クイ」「クェ」「クォ」は「カ」「クイ」「クエ」「コ」に。
クイズ イコール
- 15 Xは「キサ」……でなく「クサ」……に。
タクシー ボクシング
- ⑬ -er, -or, -ar は「ー」で。
ライター エレベーター
- 17 -um は「ウム」
アルミニウム ラジウム
- 18 原音の「テュ」「デュ」は「チュ」「ジュ」に。
チューブ ジュース
- 19 原音の「フュ」「ヴュ」は「ヒュ」「ビュ」に。
ヒューズ レビュー

この報告でも、この順序にしたがって調査項目をとりあげ、各項目の見出しのつぎに（原則3）のような形で「外来語表記の原則」の第何項にあたるかをしめした。ただし、資料の分量のおおい項目を優先的にとりあげたの

で、1～19のすべての条項にわたるわけではない。

各項目の記述のあとに、度数5以上の外来語の表記をしめした。度数1までの全例をあげると、表が大きくなりすぎるためである。

以下に、たびたび「のべ」「ことなり」という用語がでてくるが、これについて説明しておきたい。いま、

ムード 2 ムウド 1

ムームー 2

という結果で、この「ムード」と「ムウド」は、おなじ単語のことになった表記だとする。この資料の長音表記についてまとめると、

	のべ	ことなり
棒びき	6	3
母音	1	1

となる。注意しなければならないことは、この「のべ」「ことなり」が語数ではなくて、問題になる箇所の数だということである。ことなり語数が「ムード」「ムームー」の2語であるにもかかわらず、棒びきのことなり箇所数は「ムード」で1箇所、「ムームー」で前の「ムー」とあとの「ムー」2箇所、計3箇所である。

(1) 漢字、符号など (原則 1)

外来語は、カタカナ表記のものが圧倒的に多いことは当然だが、漢字や符号による表記も、すこしはある。以下、度数5以上の語でこの種の表記をもつものを、分類してあげる。

(一般語の漢字表記)

ガラス	22	カリ	4	珈琲	3
硝子	6	加里	1	タバコ	13
ガラス戸	6	クラブ	13	たばこ	3
ガラス扉	1	くらぶ	2	煙草	19
硝子戸	2	倶楽部	6	蓆	2
硝子戸	1	コーヒー	19	テーブル	21

テーブル	1	麦酒	2	釦 ^{ぼたんあな} 穴	1
卓子	2	ボタン	39	ボタンホール	14
ハンカチ	8	釦	9	釦ホール	1
ハンケチ	1	ボタン穴	5	釦 ^{ボタンホール} 穴	1
手巾	1	ボタン孔	3	レモン	5
ビール	21	釦穴	5	檸檬	1

(一般語のローマ字頭文字による省略表記)

アームホール	2	シングル巾	4	PTA	3
A. H.	3	シングル幅	1	P・T・A	2
ウエスト	50	S巾	3	ヒット	13
ウエスト	23	ダブル巾	3	ヒット	2
腹囲	1	ダブル幅	9	H	5
W	34	W巾	11	ヒップ	11
ウエスト線	7	W幅	1	腰囲	1
ウエスト線	10	バスト	8	H	14
W線	2	胸囲	1	ヤール巾	8
ウエストライン	3	B	2	ヤール幅	6
ウエスト・ライン	1	バスト線	7	Y巾	6
ウエスト・ライン	1	B線	2	Y幅	3
W. L	2	バストポイント	1	ワイシャツ	8
NHK	33	BP	1	Yシャツ	1
MGM	11	B. P	4	Yシャツ	2
LP	7	B. P.	1		

(地名・人名の漢字表記)

アメリカ	264	インド	30	サンフランシスコ	10
亜墨利加	1	印度	5	桑港	4
亜米利加	1	エトロフ	6	ドイツ	68
伊	6	扨捉	2	独逸	1
イギリス	65	オランダ	15	東亜	11
英吉利	1	阿蘭陀	1	トルコ	7
イタリア	32	キリスト	9	土耳其	1
イタリヤ	3	クリスト	1	日露	4
イタリー	4	基督	1	日魯	7
イタリイ	1	クナシリ	5	ハボマイ	5
伊太利	2	国後	1	齒舞	3

パリ	31	巴里	14	仏蘭西	1
パリー	4	フランス	100		

(助数詞など)

インチ	16	仙	5	ページ	8
吋	6	ドル	87	頁	94
キロメートル	1	弗	6	p.	3
籽	3	トン	95	pp.	1
km	6	噸	1	ポンド	32
キロワット	9	屯	1	パウンド	2
KW	13	トン数	4	封度	2
グラム	23	屯数	1	マイル	11
瓦	1	ナンバー	1	哩	1
ゼロ	5	No	1	耗 [ミリメートル]	31
零	1	No.	1	メートル	37
センチ	358	NO.	2	米	35
サンチ	2	パーセント	35	m.	14
c	77	ペアセント	2	ワット	1
センチメートル	2	%	154	W	7
糎	124	フィート	6	ワン [one]	4
cm	233	フィト	2	1	2
セント	11	呎	1		

(現代中国語)

南京	7	梅	6	マージャン	3
北京	8	蘭芳	6	麻雀	3
香港	11				

上の表について、説明をつけくわえておく。

(1) 地名「パリ」の漢字表記が49例中14例とかなりおおいが、うち9例は「巴里祭」「われら巴里ッ子」「巴里の空の下セーヌは流れる」など、映画の題名である。

(2) 助数詞の「籽」「糎」「耗」は、すべて「キロメートル」「センチメートル」「ミリメートル」とよんであるが、これは調査のとき便宜上そう統一

ただけで、実際には「キロ」「センチ」「ミリ」とよむことがおおいであろう。「キロ～キロメートル」などを文脈によってよみわけるとは、不可能である。

(2) 唇音のまえの「ン」～「ム」(原則 3)

「外来語表記の原則」には、

3. はねる音は「ン」と書く。

テンポ (tempo) トランク (trunk)

とある。この例のうち、「トランク」は「トラヌク」という表記もありうるものと予想したのだろうか。しかし、[t] や [k] のまえで「ン」がゆれをおこす現象は、雑誌九十種の資料のなかでは気がつかなかったし、あるとしても、ごくまれだとおもわれるので、ここでは問題にしない。

ここでとりあげるのは、「テンポ～テムポ」の類、すなわち、唇音 b, p, f, m のまえの「ン」が「ム」と交替するものである。結果はつぎのとおりである。

	のべ			ことなり		
	ン	ム	ムの比率	ン	ム	ムの比率
mb	77	21	21.4	28	8	22.2
mp	135	7	4.9	42	5	10.6
m(n)f(ph)	10	—	—	5	—	—
mm	11	1	8.3	6	1	14.3
nb, np	10	—	—	7	—	—
計	243	29	10.7	88	14	13.7

ここで目につくことは、b のまえの方が、p のまえよりも「ム」になりやすい、ということである。(m のまえでは、その中間になるが、これは例がすくないから、考察の対象からはぶく。)

このことは、ある程度、音声上の根拠がみとめられるようである。すなわち、N のながさをしらべてみると、aNba の N の方が aNpa の N よりもなが

く、一般に「無声子音に先行するNよりも有声子音に先行するNの方が長めである傾向」がみとめられる。(高田正治「擦音の実験音声学的研究」国立国語研究所報告71『研究報告集—3—』1982, p. 206) 一方、心理的にはおなじながさだとしても、現実の発音ではNは mu とくらべて(もちろん、ほかの一般の音節とくらべても)みじかめに発音される。(高田正治・林大「文章朗読における調音上の二、三の特徴について」日本音響学会音声研究会資料S78—79, 1979) したがって、発音のながさは、 $\mu > N(b) > N(p)$ であって、N(b)の方が μ にちかいのである。これをN(b)の表記として比較的「ム」のおおい決定的な理由とみなすことは、できないだろう。しかし、「ン」と「ム」のゆれが、まったく偶然のものではないことを推測させる手がかりにはなるはずである。

〔実例(度数5以上)〕

アンサンブル	13	コロムビア	1	No.	4
オリンピック	14	コンビ	5	ポンプ	5
キャンプ	7	ジャンパー	10	マンボ	7
キャンプ	1	ジャンパー	1	マンボー	1
キャンプ	3	ジャムパー	1	メンバー	11
キャンパネラ(人名)	4	チャンピオン	9	メンバア	1
キャンプ	1	チャンピオン	4	ランプ	15
コロムビア	8	テンポ	9		
コロムビア	8	ナンバー	1		

(3) 長音(原則7)

まず最初にはっきりさせておかなければならないことは、「長音」の範囲である。棒びきによる「ボート」「サッカー」の類は問題ない。まえの拍の母音にあたるかなをかいた「ボオト」「サッカア」なども長音とみていいだろう。ここでは、さらに、つぎのようなものも長音の表記とみとめた。

(/イ段のかな/+/「イ」以外の母音かな/)

「カルシウム」「イニシアチブ」の類である。これらは「カルシュー